

授業科目名 科目コード	地域経済論 (Topics of Regional Economics) 2037133-094					担当教員	鯉江 康正 (コイエ ヤスマサ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3年次	開講期	後期
科目特性	地域志向科目／知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
<p>本講義の目的は「広義の地域経済学」の知識を得ることである。「広義の地域経済学」とは「狭義の地域経済学」と「都市経済学」から構成される経済学の応用分野である。ここで、「狭義の地域経済学」は、地域の経済構造や経済成長を分析しつつ、地域の経済問題（地域間格差など）に対する政策を論じようとするものである。これに対して、「都市経済学」は、対象とする地域を都市に絞って、種々の経済活動の土地利用構造の経済学的分析を中心として、都市問題を解明し政策のあり方を論じようとするものである。本講義の目的をもう少し具体的に言えば、地域社会や地域経済の変化や現状を知り、それを説明する理論を身につけることを目的とする。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>地域社会に貢献する姿勢／専門的知識・技能を活用する能力を養う。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>授業で説明した事項について、長岡市や他の地域を訪問した時に自ら体感し、理解と興味を深めること。また、学修状況を確認するために、課題の提出を求める。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>「都市・地域経済学」の知識を有していることが望ましい。ただし、「都市・地域経済学」で扱った点も復習しながら講義を進める。</p>
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
<p>(i) 広義の地域経済学の課題を理解し、日本の地域構造について説明できる。 (ii) 狭義の地域経済学の中心部分である、地域所得の形成、地域経済の成長、地域間交易、地域間格差と人口移動、産業立地について説明できる。 (iii) 都市経済学の主要テーマである、都市の成立・発展、都市化と都市圏の概念および日本の都市の現状、都市の分布と階層性の問題、経済活動の立地と土地利用に関する理論、土地問題、住宅問題、都市交通問題・環境問題、地方財政と地域政策、都市政策について説明できる。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>山田浩之・徳岡一幸編（2018年）『地域経済学入門 [第3版]』有斐閣（ISBN 978-4-641-16522-9）</p>
⑦ 参考図書・指定図書

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 広義の地域経済学	広義の地域経済学の課題や日本の地域構造について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた学修成果を示している	広義の地域経済学の課題や日本の地域構造について、資料等に頼らず説明できる	広義の地域経済学の課題や日本の地域構造について、資料等を見ながら説明できる	広義の地域経済学の課題や日本の地域構造について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	広義の地域経済学の課題や日本の地域構造について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 狭義の地域経済学	狭義の地域経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた分析もできる	狭義の地域経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等に頼らず説明できる	狭義の地域経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等を見ながら説明できる	狭義の地域経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	狭義の地域経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 都市経済学	都市経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた分析もできる	都市経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等に頼らず説明できる	都市経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等を見ながら説明できる	都市経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	都市経済学の問題やそれを解決する理論について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%		20%			30%		100%
(i) 広義の地域経済学	5%		2%			3%		10%
(ii) 狭義の地域経済学	20%		8%			12%		40%
(iii) 都市経済学	25%		10%			15%		50%
フィードバックの方法	課題は採点して模範解答を添付し返却する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
取り上げたトピックスに対する興味を深める意味でも、自分ならばどうするかを考える機会を増やしていくと共に、課題を出すことによって、学生の理解度を高めていく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション 広義の地域経済学①（地域経済学の課題）	地域経済学の目的と方法、地域の概念、グローバル化と地域経済を理解し、地域経済分析のための統計データを入手できるようにする。	60分
2	広義の地域経済学②（日本の地域構造）	産業構造の変化と地域構造、人口動態からみた地域構造、情報化・国際化と東京一極集中について理解する。	75分
3	狭義の地域経済学①（地域経済と所得形成）	地域経済計算とその概念を知り、地域所得の決定メカニズム、地域の産業連関分析を理解する。	75分
4	狭義の地域経済学②（地域成長の経済分析）	地域の成長をもたらす要因を知り、需要主導型モデルと供給主導型モデルを理解する。	75分
5	狭義の地域経済学③（地域間交易の理論）	地域間の交易パターン、比較優位と地域間交易の関係、地域間交易の経済効果などについて理解する。	75分
6	狭義の地域経済学④（地域間格差と人口移動）	日本の地域間格差の現状を把握し、経済発展と地域間格差、地域間格差が存続する理由、人口移動と労働市場の関係について理解する。	75分
7	狭義の地域経済学⑤（産業の立地）	立地論の考え方を知り、工業立地理論、空間的競争、外部性と産業集積について理解する。	75分
8	都市経済学①（都市の成立・発展）	都市とはどういう性質を持っているのかを知り、集積の経済と都市発展、都市化と都市圏の形成、日本の都市制度について理解する。	75分
9	都市経済学②（都市システム）	輸送費と商圏の関係、中心地理論から見た都市システムを知り、日本の都市システム、都市システムと人口規模の関係を理解する。	75分
10	都市経済学③（都市の土地利用、土地問題と土地政策）	都市の土地利用について、地価と地代の違いを知り、住宅の立地、付け値地代・市場地代・土地利用を理解する。そのうえで、戦後の土地問題とそれに対する土地政策を理解する。	90分
11	都市経済学④（住宅市場と住宅政策）	住宅と住宅市場の特質を知り、住宅の需要と供給、住宅政策を理解する。	60分

12	都市経済学⑤（都市交通と環境）	都市と交通システムを知り、交通需要、都市の交通問題、都市の環境問題を理解する。	75分
13	都市経済学⑥（地方財政と地方分権）	地域経済と地方財政を知り、地方財政の歳入と歳出、地方公共財、政策評価を理解し、地方分権への道を考える。	75分
14	都市経済学⑦（地域政策）	地域政策の目的と地域開発戦略、日本の地域政策を知り、地域再生と観光戦略を考える。	75分
15	都市経済学⑧（都市政策とまちづくり）	都市問題と都市政策、都市再生政策を知り、まちづくりの展開を考える。	75分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型 AL を採用する。毎回の講義で質問感想シートを配布し、次の講義の最初にそれに対する解説を行い、学生の理解度を高めていく。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
前職の民間シンクタンクでは、「整備新幹線の経済効果分析」「道路整備の効果と評価に関する調査」「公共投資の九州地域経済に与えるインパクト分析」などの調査研究活動に従事してきた。また、「長岡市総合計画策定委員会」「長岡市都市計画マスタープラン策定委員会」「長岡版広域道路ビジョン懇談会」「長岡市住宅政策マスタープラン改定検討会議」「地域資源発信拠点整備検討委員会」などの委員を歴任している。	
実務経験と授業科目との関連性	
シンクタンクにおける経験や審議会の委員の経験から、各テーマについて多くの具体例を説明できる。とりわけ、総合計画や都市マスタープランを題材にした長岡市の現状紹介、「交通問題」や「費用便益分析」においては実務でも同様の調査を多く行ってきており、その経験を踏まえた解説を行っていく。	